

センター通信

知床森林生態系保全センター



知床森林生態系保全センターでは、知床世界自然遺産関係の業務を行っています。今回はそうした業務の一つである、野生生物観測調査についてご紹介します。

【野生生物観測調査とは】

野生生物観測調査は、写真のように、林道沿いの木にセンサーが反応すると自動で撮影を行うカメラ機器を取り付け、野生生物の生息状況をモニタリングすることで、適切な生態系の管理に繋げることを目的に行っています。2008年度から実施しており、今年度で14年目になります。



自動撮影カメラ

当センターでは斜里側のオパケブ林道、羅臼側の春荻古丹林道の2ヶ所それぞれ

それ2ヶ月間実施しているのですが、カメラがヒグマにいじられて落下していることがあるので、設置期間中は週に一度見回りを行います。

【撮影された野生生物たち】

延べ4ヶ月の調査で、約2,000枚の写真が撮影されますが、そこにはエゾシカやヒグマを始めとした様々な生物が写っています。次の写真は、春荻古丹林道にて撮影されたヒグマの写真です。頭から前足にかけてしか写っていませんが、これだけ近い距離だと、ヒグマの爪の鋭さまでよく分かります。



昨年7月に撮影されたヒグマ

この調査では、普段は見ることのできない野生生物

の姿を見ることができ、職員にとっては楽しみの一つにもなっています。

【外来種が写ることも】

エゾシカやヒグマは知床では見慣れた生物ですが、撮影されるのはそうした見慣れた生物たちだけではなく、本来はそこに生息していないはずの外来種が撮影される場合もあります。

この調査ではそうした外来種のモニタリングも目的となっています。



昨年6月に撮影されたアメリカミンク

こちらは特定外来生物にも指定されている、アメリカミンクの写真です。アメリカミンクは、知床では外来種の中でも比較的撮影されることの多い生物です。



昨年9月に撮影されたアライグマ

こちらは「あらいぐまラスカル」でお馴染みのアライグマです。可愛いイメージがあるかもしれませんが、アライグマも特定外来生物に指定されています。

外来種は知床の貴重な生態系に影響を与える恐れがあるため、撮影された場合は、環境省や知床財団への情報共有および知床白書への情報掲載をしています。

【おわりに】

今回は紙幅の都合上、数枚の写真しかご紹介できませんでしたが、知床森林生態系保全センターホームページの職員ブログ（2021年12月）では他の写真なども掲載しておりますので、ぜひご覧ください。